

# 現代社会（1年生）の授業で、 模擬投票を実施しました！

「主権者教育」の一環として、授業時間を使って模擬投票を実施しました。生徒は、過去の国政選挙で掲げられた公約を見比べ、自分で考え、投票用紙に記入し、投票箱に入れました。選挙管理委員会による開票後の感想を以下に記します。



- ★ 政策について、どれが良いか考えるのが面白かった。
- ★ 各党それぞれに自分の考えに合うところ、合わないところがあり、一つの党に決めるのが難しかった。本当の選挙でもしっかり考えて投票したい。
- ★ 公約がばらばらだから、どこに投票するか迷った。これが本当の選挙だったら、とても責任重大な一票なのだと思う。
- ★ 自分の一票で議席が決まると思うと真剣にやらなければいけないと思い、少し悩んだ。一票の重さを感じたし、選挙権をもらったらしっかり行きたいと思った。
- ★ 自分の一票でも結果が変わってしまった所もあったので、自分の一票への責任の大きさを感じました。日本の政治に関われる選挙では、権利を行使していきたいです。また、現実と模擬投票では結果が違ったので、若者の意見を取り入れることは大切だと思いました。
- ★ 投票しないなんてもったいない。
- ★ 自分が18歳になって初めての選挙の時に、投票箱の中の確認をやってみたいと思った。
- ★ 公約を読んで考えたけど、もっと調べる時間があったら、より良いと思える人や党が見つかると思った。
- ★ 自分の考えとは違う人は必ずいることを改めて思った。政権公約は、有権者の意見をかなり左右させるものなのだと思う。

